

- ハ 輸入鹽使用者又ハ使用用途ヲ調査スルコト
- ニ 外國鹽ノ輸入手續ヲ定ムルコト
- 十七 臺灣鹽輸入ニ關スル調査ヲ爲スコト
- イ 臺灣鹽ノ輸入數量ヲ調査スルコト
- ロ 臺灣鹽使用者又ハ使用ノ用途ヲ調査スルコト
- ハ 臺灣鹽輸入手續ヲ定ムルコト
- 十八 專賣局支局出張所ニ備付クヘキ備品ヲ調査スルコト
- 十九 專賣機關ノ官制ヲ定ムルコト
- 二十 專賣ノ經費豫算ヲ調製スルコト
- 二十一 專賣ノ收支計算ヲ爲スコト
- 二十二 備付クヘキ帳簿ヲ調査シ其ノ様式ヲ定ムルコト
- 二十三 專賣法及施行規則ヲ起草スルコト
- 二十四 鹽ニ關スル諸統計ヲ調製スルコト
- 二十五 外國ニ於ケル鹽專賣法規ヲ翻譯スルコト
- 二十六 各産鹽地方ノ略圖ヲ作製スルコト

第二節 專賣法ノ公布

第一款 鹽專賣計畫ニ對スル當業者ノ動靜

是ヨリ先政府カ專賣施行ノ準備ヲ急クヤ斯業關係者ハ其ノ利害ニ應シ起テ贊否ヲ唱ヘ或ハ課稅ヲ可トシ或ハ專賣ヲ可トシ政府ニ建議スルアリ輿論ニ訴フルアリテ運動漸ク盛ナルニ至レリ

明治三十七年十月二十七日大日本鹽業協會ハ大藏大臣ニ對シ左ノ建議ヲ爲シタリ

今春宣戰ノ後政府ハ軍資ノ急ニ應スルカ爲メ鹽ニ消費稅ヲ課セムトスルノ意アルヲ聞ケリ然ルニ本會カ多年攻究スル所ニ據レハ本邦鹽業ハ改善ノ跡著シカラサルノミナラス年々歲々萎縮ノ悲運ニ傾キ之ヲ放任スルトキハ竟ニ七千五百町歩ノ鹽田ヲ荒廢ニ歸スルノ虞アルヲ以テ今日ニ於テ之カ計畫ヲ爲スノ必要アリ即チ之ヲ專賣ト爲シ一ハ國家ノ財源ニ充テ一ハ鹽業ノ振興ヲ圖ルニ若カサルヲ信シ再次建議スル所アリタリ是ニ於テ政府ハ專賣法ヲ起案シ之ヲ第二十帝國議會ニ提出セムトシタルニ其ノ事無クシテ止ミタリ依テ第二十一帝國議會ニハ必ス更ニ該法案ノ提出アルヘキヲ確信スト雖頃日民間ニ於テ之ニ反對シ私利ヲ爭フモノアリト聞ク今若シ政府ニシテ消費稅法ヲ採ルカ如キコトアラハ即チ其ノ結果ハ國庫ノ收入ヲ減シ反テ民衆ノ痛苦ヲ増スニ了ラムノミ其ノ專賣消費兩說ノ利害ハ前回ノ建議ニ於テ之ヲ縷陳シタレハ復之ヲ贅セス冀クハ賢明ナル閣下深ク清鑑ヲ垂レ軍資ヲ充實シ民業ヲ保護スルノ精神ヲ以テ鹽專賣法ヲ採用セラレムコトヲ重テ茲ニ之ヲ建議ス

課稅反對ノ目的ヲ以テ鹽業者ノ組織セル大日本鹽業同志會モ亦左ノ事項ヲ檄シテ消費稅反對ノ意見ヲ表シ專賣ノ成立ヲ望メリ

一鹽ニ課稅スルハ不可ナリ

鹽ハ人生必需ノ品ニシテ貧富ヲ問ハス使用スルモノナレハ之ニ課稅スルハ殆ト人頭稅ニ同シ然レトモ戰時ノ財政上他ニ適當ノ稅源ナキ場合ハ國民モ鹽業者モ不得已此ノ課稅ヲ忍ハサル可ラス而シテ其ノ徵稅法ノ如何ニヨリテハ生産力ヲ萎微セシメ商業道德ヲ破壞シ而モ政府ハ收入ノ目的ヲ達シ能ハサルニ至ルヘシ

一消費稅ノ非ナル所以ハ

一 鹽田ハ概ネ人煙稀ナル海濱ニ散在シ製鹽ハ四季晝夜ヲ擇ハス鹹水ノ濃淡時ニ差アリテ一定ノ產出ナキ故法網ヲ逃レ脫稅スルコト容易ナリ之ヲ取締ラムトセハ多數ノ監吏ト多額ノ費用トヲ要ス若シ聊之ヲ忽ニセハ脫稅相踵テ正業者ヲ苦マシムルノミナラス政府モ豫期ノ收入ヲ得ルニ難シ

二 脫稅ノ結果ハ市價ノ平準ヲ失ハシメ延テ粗製濫造ノ弊ヲ釀シ外鹽ノ輸入ヲ誘致ス

三 同一政府ノ下ニ於テ臺灣鹽ニハ專賣ヲ行ヒ内地鹽ニハ消費稅ヲ行ハンカ其ノ調和ヲ得ルコト頗ル難シ

四 奸商カ中途ニ於テ私ヲ營ムノ弊習ハ價格騰貴ノ爲メニ更ニ甚シキヲ加ヘム

一 消費稅率ノ不當

世間傳ルトコロノ消費稅論者ノ言ニヨレハ政府ノ計畫セル專賣收益ハ一石二圓五十錢若ハ之ニ近キ稅額ヲ課スルヲ認ムルモノノ如シ抑モ消費稅ハ原價ノ一割ヨリ三割ヲ普通トス砂糖消費稅ニ視ルモ亦然リ鹽ノ原價ハ一石約一圓五十錢ナルニ之ニ十割以上十五割ヲ課スルハ苛稅ノ最モ甚シキ者ト云ハサルヲ得ス之ヲ普通一割若ハ二割トセハ殆ト稅源トナスニ足ラサルヲ奈何セム

一 寧口專賣法ノ成立ヲ望ム

政府カ適當ナル方法ニヨリ之ヲ行フトキハ生産力ヲ害セスシテ收入ノ目的ヲ達スルヲ得ム

- 一 稅源確實ニシテ豫定ノ額ヲ得ヘシ
- 二 政府以外ニハ買收スルモノナキカ故ニ取締比較的容易ニシテ脫稅ノ弊少ナシ
- 三 政府ハ品位ニヨリ賠償價格ニ等差ヲ付スヘキ故自然ニ鹽質ノ改良ヲ促スヘシ
- 一 消費稅必スシモ一時稅ナラス

專賣法ハ永久税ニシテ消費税ハ然ラスト云フモ戰後經營上此等ノ收入ヲ放棄スルコトノ難キハ豫想スルニ足ル

一試ニ消費税ヲ行フノ不可

或論者ハ試ニ二三年間消費税ヲ施行シ果シテ違算弊害アルトキハ之ヲ廢スルモ可ナリトノ言ヲナスモ是レ思ハサルノ甚シキモノニシテ此ノ二三年間ニ正直ナル製鹽業者ハ大打撃ヲ蒙リテ復タ起ツ能ハサルニ至ルヤ必セリ

右ノ理由ニヨリ左ノ決議ヲナス

本會ハ鹽ノ課税ニ對シ消費税說ヲ否認シ寧ロ專賣法ノ成立ヲ望ム

同時ニ全國主要産地ノ製鹽業者ハ連署ヲ以テ政府ニ對シ軍國非常ノ秋ニ際シ鹽ニ對シ財源ヲ求ムルハ國民ノ義務トシテ敢テ辭スル所ニ非サルモ消費税トシテ課税セムトスルハ鹽業ノ頽廢ヲ速キ其ノ目的ヲ達スルコト難キヲ以テ之ヲ專賣ト爲シ以テ國家財源ノ大本ヲ確立セラレタキ旨ノ建議書ヲ提出セリ此ノ如クシテ製鹽業者ハ舉テ課税ヲ非トスル者ノミナルモ進テ專賣ト爲スニ至リテハ二三地方ニ於テ或ハ鹽商人ヨリ製鹽資金ノ融通ヲ受ケ來レルアリテ其ノ杜絶ヲ憂フルアリ或ハ又從來買付ニ來リシ商人ノ滯泊ヲ見サルニ至リ土地ノ繁榮ヲ害スヘシトスルアリテ個人又ハ地方ニ於ケル特種ノ關係ヨリ專賣贊成ニ遲疑スル者アリシモ漸クニシテ消息ニ通スルニ至リ製鹽業者トシテハ專賣ヲ非トスルモノナキニ至リ或ハ陳情書ヲ以テ或ハ總代ヲ上京セシメ其ノ主張ノ貫徹ニカムルニ至レリ

然レトモ東京鹽問屋ヲ中堅トセル鹽販賣業者ニ在リテハ春來鹽專賣反對同盟會トシテ反對運動ヲ絶タス鹽業同志會ノ運動ニ對シ左ノ事由ヲ掲ケテ專賣ヲ非認シ地方同業者ニ檄シテ專賣計畫ノ阻止ヲ圖レリ

一 鹽專賣ハ反對ナリ

鹽ニ課税スルハ不可ナルモ之ヲ專賣トスルハ更ニ不可ナリ鹽ハ人生必需ノ品ニシテ之ニ課税スルハ殆ト人頭税ニ齊シキ嫌アリ然レトモ戰時ノ必要ニ際シテハ之ヲモ辭スヘカラサル場合アリ是レ財政上最後ノ急ニ應スルモノニシテ今日ハ尙未タ斯ル窮極ニ達セスト雖時局已ムヲ得サレハ戰時有期税トシテ姑ク之ヲ忍ハムノミ專賣ニ至リテハ人生ノ必需品ニ對シ永久ニ其ノ價格ヲ昂騰セシメ其ノ必要アラサルニ早ク人頭税ヲ課スルノ弊害ヲ免レス是レ到底國民カ忍フ能ハサル所ナリ

二

鹽專賣ニハ公然タル贊成者ナシ
專賣ノ希望ヲ以テ成立スル鹽業同志會ナル者ノ決議ヲ見ルニ寧口專賣法ノ成立ヲ望ムト稱スルノミニシテ是カ公然贊成ノ意ヲ表明スルノ勇氣ナシ斯ノ同志會ニシテ已ニ然リトセハ世間絶對的ニ鹽專賣ノ贊成者ナキナリ

三

鹽專賣ノ外國事例ハ毫モ我國情ニ適セス
歐洲ニ於ケル食鹽ノ大部分ハ天然產ナリ是カ一切ノ事情ハ頗ル官業ニ適シ且ツ古來因襲ノ一制度ナルニ拘ハラス輓近之ヲ以テ國家產業ニ害アリトシテ獨佛等ノ諸國ハ既ニ之ヲ全廢セリ今ヤ僅ニ埃匈伊等ニ現在スルノミ英領印度ノ如キモ近頃識者間ニ於テ非專賣ノ聲高キモ他ニ適當ノ財源ナキ爲メニ現狀ヲ維持スルニ過キス我鹽業一切ノ事情ハ官營ニ適セサルナリ彼ハ是ニ反シテ天然產ノ利アリ且ツ因襲制度ナルモ而モ斷然之ヲ廢セリ然ルニ我ハ官營ニ不適當ナル事情ヲ冒シ習慣ナキ鹽專賣ヲ創設セントス其ノ失敗ヲ見ルヤ必然ナリ

四

食鹽ハ專賣ニ適セス

第二章 專賣法ノ制定

食鹽ハ煙草ノ如キ贅澤品ニ非ス且煙草ハ海外トラストノ影響又ハ衛生上ノ注意ヲ要シ專賣品ニ適スルモ食鹽ハ一切是等ノ條件ヲ具セス

五 專賣ハ消費稅ヨリモ弊害多シ

鹽業同志會ハ云ヘリ「鹽田ハ概ネ八煙稀ナル海濱ニ散在シ(中略)一定ノ產出ナキ故法網ヲ逃レ脫稅スルコト容易ナリ之ヲ取締ラムトセハ多數ノ監吏ト多額ノ費用トヲ要ス(中略)政府モ豫期ノ收入ヲ得ルニ難シ」ト彼等カ消費稅ノ非ヲ說ク所以ハ却テ專賣收益上ノ困難ナル所以ヲ說クモノナリ何トナレハ賠償價格一圓五十錢賣下價格四圓其ノ差ノ國庫收入率二圓五十錢ハ實ニ密賣買ヲ誘致シ茲ニ彼等カ消費稅ニ憂フルヨリモ尙甚シキ弊害ノ存スルヤ明ナリ

六 專賣制ハ戰時財政ニ矛盾セリ

消費課稅ハ在來ノ收稅機關ニテ處辨シ得ヘキモ專賣ハ一切ノ新設ヲ要シ且ツ應急ノ用ヲナス之ヲ營ムニ於テ多額ノ資金ト官營費トヲ靡ス斯ル事業ヲ軍國多事ノ際ニ強行セムトスルハ矛盾モ亦甚シ

七 專賣ハ課稅ヨリモ鹽價ヲ高カラシム

專賣希望者ハ政府計畫ノ專賣收益一石當二圓五十錢ニ近キ消費稅ヲ課スルハ苛稅ナリト云ヘリ然レトモ專賣ト課稅ハ畢竟スルニ消費者ノ負擔ノミ課稅ノ二圓五十錢ハ專賣ノ二圓五十錢ヨリ苛ナルニ非ラス而シテ專賣ノ二圓五十錢ヨリ得ヘキ國庫純收入額ハ課稅方法ニヨレハ約二圓ニテ充分ナリ其ノ理由ハ課稅ニハ官營費一石割當ニ約二十錢量目ト變質トニ約三十錢ノ政府缺損ヲ要セサレハナリ

八 專賣法ノ成立ヲ望ムモノハ私利的希望ナリ

時局急ヲ告クル折柄ハ先ツ國庫收入ヲ課税ニ求メ徐ロニ攷究ノ餘地ヲ與ヘタル後ニ於テ
專賣ノ是非ヲ決スルモ遲カラサルニ希望者カ寧口時局ニ乘セムトスル傾向アルヲ察スレ
ハ彼ノ鹽田好價ノ維持ニ汲々タル鹽田家ト之ニ隨伴スル小作人カ賠償價格ニ空望ヲ囑シ
只管ニ一般國民ヲ犠牲タラシムル專賣制ノ保護ニ倚リテ自己ヲ利セントスルニ他ナラサ
ルナリ

九 鹽質ノ改良ヲ專賣ニ望ムハ誤謬ナリ

「徒ニ品質ノ改良ニシテ猛進センカ品質ノ上ニ世上ノ稱贊ヲ博スヘキモ品質改良ニハ必ス
ヤ價格昂進ノ伴フヲ免レス却テ販路ヲ失フノ虞ナキニ非ス」トハ改良ニ成功シテ販路ニ失
敗セシ臺灣專賣局カ報告書ニ掲ケタル自白ナリ品質改良ヲ專賣ニ望ムハ抑モ謬レリ

十 賠償價格ノ算定ハ困難ナリ

二百六十有餘ノ鹽濱ニ於ケル特異ノ事情販路ノ區々ナルニ加ヘテ食鹽カ天候ニ支配サル
ル供給ト人生ニ適切ナル需要トハ頻々衝突シテ時價ノ激變計リ難シ斯ル情態ノ下ニ相當
ナル賠償價格ヲ算定セムコトハ到底不可能ナリト謂フヲ憚カラス而シテ其ノ算定ノ不公
平ナル是レヨリ鹽業ノ頽敗ヲ招致スヘシ

十一 一般需要者ハ專賣局ヨリ直接購入スルヲ得ス

賣下ヲ受クヘキモノハ免許料ヲ納メ且一定ノ數量以上ヲ引取ルヘキコトヲ規定シタル當
局者ハ一方ニ於テ專賣ニ依リテ一般需要者カ商人ノ手ヲ經サル利益アリト説ケリ迂モ亦
甚シ夫レ少量ヲ要スル各個人カ豫メ資格ヲ作り置キ入用ノ都度專賣局ヨリ直取引ヲ爲ス
カ如キハ事實ニ在リ得ヘカラサルナリ

十二 鹽專賣ハ葉煙草專賣ノ覆轍ヲ踏ムヘシ

鹽專賣ハ政府カ製鹽ヲ併舉スルニ非サレハ再ヒ葉煙草ニ失敗シタル經歷ヲ再演スヘシ
 十三 臺灣鹽專賣收入ハ六十萬圓ニシテ其ノ實收入ハ僅々二十萬圓ナリ

其ノ差額ハ悉ク官營費ニ靡シタルナリ政府カ官營費トシテ八十餘萬圓ヲ計上シタルモ其
 ノ結果ハ甚シキ違算ヲ示スヘキヤ明ナリ

十四 鹽專賣ハ徒ニ我國財源ノ枯渴ヲ海外ニ暗示スルモノナリ

英國ハ多年ノ財源ナル鹽稅ヲ廢シ米國ハ斷シテ鹽稅主義ヲ採ラス食鹽カ國民元氣ノ消長
 ニ關スルヤ亦辯ヲ俟タス今ヤ國家カ非常ノ時ニ處スルニ膺リ非常特別課稅ノ手段アルニ
 拘ラス之ヲ擱キテ斯ル人生必需品ヲモ拉ヘ來リテ永久的官業トナサムト欲ス徒ニ財源ノ
 枯渴ヲ海外ニ暗示シ布テ將來募債ノ上ニモ影響シテ國家ノ不利是ヨリ大ナルハ莫シ

右ノ理由ニ依リ

本會ハ戰時有所稅トシテ食鹽ニ消費稅ヲ課セラルルハ萬止ムヲ得ストシテ專賣法ヲ否認
 ス

地方ノ販賣業者ニ在リテハ別ニ政府ニ對シ陳情書ヲ以テ專賣ノ不可ヲ懇フルアリ或ハ又相應シ
 テ反對運動ニ加擔スルアリ然レトモ多クハ鹽取引ノ多量ナル地方ニ限り其ノ他ハ概シテ冷淡ニ
 シテ殆ト成行ヲ看過セルモノノ如シ既ニシテ專賣法案ヲ議會ニ提出スルニ至ルヤ反對運動愈急
 ニシテ直江津商業會議所カ左記反對理由ヲ舉ケテ專賣ヲ難シ消費稅ヲ可トスルコトヲ議決シ政
 府ニ對シ建議書ヲ提出シタルヲ魁トシ各所ノ商業會議所ニ於テモ相尋テ專賣非認ノ建議ヲ爲ス
 ニ至レリ

一 國家ノ本能ハ私人ノ上ニ超絶シテ之ニ命令シ之ヲ強制スルニ在リ故ニ國家ハ其ノ目的ヲ
 達スル爲メニ獨リ徵稅賦課ノ權ヲ專ニス其ノ偶々私人ト相駢馳シテ營利行爲ヲ爲スノ事實

アルハ畢竟國家財政ト侯伯ノ内帑トヲ混同一視セル中世遺習ノ反影ノミ近世國家ノ觀念ニ適合スル現象ニ非ス

鹽專賣ハ國家ヲ取テ直ニ私人ノ列伍ニ投シ鉛銖相爭ハシメムト擬スルモノ國家ノ本能ヲ賊スル之ヨリ甚シキハナシ是レ鹽專賣ヲ非認スル第一義ナリ

二 同シク之レ營業ナリ而カモ私人ノ營業ハ征利ヲ以テ唯一目的ト爲スニ反シ國家ノ營業ハ收益ヲ以テ目的ノ一部ト爲スニ過キス時トシテハ全ク利害ノ觀念ヲ挾マサルヲ其ノ本義トス要ハ事業ノ統一公益ノ増進公安ノ保護等ヲ以テ主タル目的ト爲スニ在リ

鹽專賣ハ征利ヲ以テ唯一ノ目的トスルモノ國家ノ業ニ非サルナリ是レ鹽專賣ヲ非認スル第二義ナリ

三 縱令純然タル經濟觀ヲ以テ國家カ或種ノ事業ヲ營ムコト無キニ非サルモ斯カル場合ニ於テハ其ノ事業カ之ヲ私人ニ委スレハ獨占ニ陷リ易キ性質ノモノ又ハ之ヲ民業ニ任スレハ其ノ成功ヲ期シ難キ性質ノモノタラサルヘカラス

四 鹽專賣ハ如此看易キ經濟上ノ通義ヲ沒了シテ國家ヲシテ敢テ百年ノ失計ヲ行ハシメムトスルモノ般鑑遠カラス西班牙葡萄牙ニ在リ是レ鹽ノ專賣ヲ非認スル第三義ナリ

經濟現象ノ發達社會狀態ノ向上ハ一ニ之ヲ自然ノ進運ニ放任スヘグ人爲ノ法規ニ依リ遽ニ更改スヘキ底ノモノニ非ス國家ハ助長ヲ力ムヘクシテ更改ヲ強フヘカラス

鹽專賣ハ經營統一ノ名ノ下ニ經濟現象ノ發達ヲ促シ品質改良ノ口實ヲ以テ社會狀態ノ向上ヲ強井ムトス豈ニ苗ノ長セサルヲ憂ヘテ苗ヲ拔クモノニ異ナラムヤ是レ鹽專賣ヲ非認スル第四義ナリ

五 局部ノ財政計畫ノ爲メニ脉絡錯綜セル商慣習ヲ一朝ニシテ打破スルハ經濟政策ノ源義ニ

反ス財政經濟固ト別アリ而カモ互ニ相因果ス財政ヲ料理スルモノ先ツ經濟ノ狀態如何ヲ察セサルヘカラス

鹽專賣ハ製鹽業者ト仲買小賣人トノ間ニ連綿タル商慣習ヲ無視シ相頼リ相資クル錯綜セル經濟關係ヲ打破セムトスルモノ經濟界豈ニ不測ノ危險ナシト云ハムヤ是レ鹽專賣ヲ非認スル第五義ナリ

六

國庫ノ空實ハ人民貧富ノ反影ナリ國庫ノ充實ニ急ニシテ人民ノ生業ヲ奪ヒテ顧ミサルハ國家ノ狀態ヲ病的悲運ニ促進スルモノナリ國家ノ目的ヲ達セムトシテ却テ其ノ目的ヲ誤ルモノ例之角ヲ矯メムトシテ牛ヲ殺スモノニ等シ

鹽專賣ハ國家ノ收入ヲ増進セムト欲シテ妄ニ人民ノ生業ヲ奪ヒ去ルモノニ非サルカ國家ノ目的ヲ誤ルモノニ非サルカ財政ノ任ニ當ルモノ沈思熟慮ヲ要ス之レ鹽專賣ヲ非認スル第六義ナリ

七

戰爭ハ國家興亡ノ繫ル所如何ナル手段ヲ盡シ如何ナル方法ヲ講スルモ其ノ目的ハ之ヲ達セサルヘカラス而カモ國家カ幾萬ノ生靈ヲ亡ヒ幾億ノ國帑ヲ費シテモ尙且交戦ヲ敢テセサルヘカラサル其ノ緣由ヲ忘ルヘカラス戰役ノ目的ハ敵國ノ戰鬪力ヲ奪フニ止マラス實ニ國家ノ目的ヲ達スルニ在リ國家ノ目的ハ高遠ナリ偉大ナリ而カモ要ハ國家ヲシテ健全ナル發達ヲ爲サシムルニ外ナラス

鹽專賣ハ國民奉公ノ美德ニ藉リテ之ヲ朝四暮三ノ徒タラシメムトスルモノナリ徵稅ノ苦痛ハ之ヲ強フヘシ而カモ産業ノ根柢ハ之ヲ覆スヘカラス一ハ節約精勵ニ依リテ之ヲ輕減スルコトヲ得ルモ他ハ生活ノ根柢ヲ失フヲ奈何セム是レ鹽專賣ヲ非認スル第七義ナリ

右ノ如ク大勢ニ於テ之ヲ見ルトキハ鹽ニ依リ收入ヲ得ムトスルノ到底避クヘカラサルコトハ一

般ニ認ムル所ニシテ製鹽業者ハ專賣ヲ希望シ賴テ以テ鹽業保護ノ基ヲ爲サムコトヲ期シ販賣業者ハ民業ヲ殺クノ不理ヲ唱ヘ一時ノ財源ヲ求ムルニ永久的ノ施設ヲ爲スノ過レルコトヲ説キ消費稅說ヲ主張シ各相起テ輿論ニ訴フルニ至レリ

此ノ際ニ於テ直ニ影響シタルモノハ鹽價ニシテ明治三十七年三四月頃生産地ニ在リテハ下落シテ一石九十錢迄ニ暴落ヲ見ルニ至リ製鹽業者ハ稍々困難ノ狀ヲ見ルニ至リシニ專賣法案ヲ議會ニ提出スルニ及ヒテヤ俄ニ騰貴ノ趨勢アリテ十一月ニ及ヒ香川縣下ニシテ一石二圓以上ニテ取引ヲ見ルニ至リ德島縣下ニ在リテモ二斗五升入一俵普通二十四五錢ノモノ倍價五十錢以上ニ奔騰スルニ至レリ蓋シ專賣實施後ニ於ケル政府ノ賣下價格ハ一石約四圓位ト見積リ見越買占ヲ爲スニ因ルモノノ如シ

第一款 鹽專賣法案ノ提出

時局ハ益々發展シ軍費ノ支出愈々多キヲ加フルニ及ヒ第一次ノ增收計畫ハ以テ必要ノ全部ヲ充スニ足ラスシテ更ニ第二次ノ增收計畫ヲ定メサルヘカラサルニ至リ鹽ニ對シ歲入ヲ求ムルノ已ムヲ得サルニ至リタルヲ以テ前記閣議ノ決定ニ基キ專賣法ヲ立案シ審議ヲ盡シ明治三十七年十月二十一日之ヲ閣議ニ提出シタリ

鹽專賣法案

第一條 政府ハ鹽ノ專賣權ヲ有ス

第二條 政府ハ便宜ノ地ニ鹽取扱所ヲ設置シ鹽ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

第三條 鹽ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法不施行

地ヨリ移入スルコトヲ得ス